

問1 古墳時代に、大山古墳（仁徳天皇陵）のような巨大な前方後円墳が築造された歴史的な背景や目的として、最も適切な説明はどれですか。

（2023年 神奈川県公立入試 類似）

- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 大和政権（ヤマト王権）の王が、自らの強大な権威や動員できる労働力の大きさを各地の豪族に誇示するため。 | 2. 大規模な稲作の普及により余った土地を、洪水から守るための避難場所として整備するため。 | 3. 大陸から伝来した仏教の教えに基づき、故人を盛大に供養することで国家の安寧を祈願するため。 | 4. 海外からの侵略を監視し、防衛するための軍事的な物見櫓や要塞として機能させるため。 |
|---|---|---|---|

問2 3世紀ごろの中国大陸では、複数の勢力が対立して覇権を争っていました。この時期、日本の邪馬台国の女王である卑弥呼が使いを送り、「親魏倭王」の称号を授かったとされる国が含まれる時代の名称を選びなさい。

（2016年 和歌山県公立入試 類似）

- | | | | |
|-----------|---------|---------|----------|
| 1. 五代十国時代 | 2. 三国時代 | 3. 戦国時代 | 4. 南北朝時代 |
|-----------|---------|---------|----------|

問3 埼玉県の稲荷山古墳から出土した鉄剣には、当時のヤマト政権（ヤマト王権）の支配者の呼び名が刻まれています。この鉄剣の銘文に見られる、当時の最高権力者の称号として正しいものを選びなさい。

（2016年 高知県公立入試 類似）

- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 1. 大王 | 2. 皇帝 | 3. 天皇 | 4. 関白 |
|-------|-------|-------|-------|

問4 古墳時代に朝鮮半島から渡来人が渡ってきた時期の文化についての説明として、渡来人が伝えた土器の特徴を表しているものはどれですか。

（2025年 岩手県公立入試 類似）

- | | | | |
|-----------------------|-------------------------|------------------------|----------------------|
| 1. 高温で焼かれた、かたくて灰色の須恵器 | 2. 表面に縄目の文様がつけられた深鉢形の土器 | 3. 低温で焼かれた、あつ手で褐色の縄文土器 | 4. 薄手でかたく、赤褐色をした弥生土器 |
|-----------------------|-------------------------|------------------------|----------------------|

問5 世界文化遺産にも登録されている、大阪府の「百舌鳥・古市古墳群」について述べた文として、正しいものはどれか。

（2020年 佐賀県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. すべて直径10メートル程度の小さな円墳のみで構成された、庶民のための墓地群である。 | 2. 仏教が伝来した後に、聖徳太子の命令によって各地の寺院の隣に作られたものである。 | 3. 日本最大の面積を誇る大仙古墳（大山古墳）など、巨大な前方後円墳が含まれている。 | 4. 東北地方から九州地方にかけての全国各地から、有力な豪族の遺骨を集めて埋葬した場所である。 |
|--|--|--|---|

問6 法隆寺などの寺院が建立され始めた時期、日本の歴史的背景における建築物の変遷について説明した文として最も適切なものはどれですか。

（2022年 岡山県公立入試 類似）

- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 狩猟採集の生活から稲作を中心とする生活へ変化したことで、共同体の食料を保管するための高床倉庫が寺院へと発展した。 | 2. キリスト教の伝来により、各地の有力者は伝統的な墓の形式を捨て、教会を模した石造りの建築物を好むようになった。 | 3. 仏教の伝来にともない、それまで権威の象徴であった有力者の巨大な墓に代わって、寺院が建立されるようになった。 | 4. 律令制度の確立により、すべての有力者は墓を造ることを禁止され、代わりに都へ移住することが義務付けられた。 |
|---|---|--|---|

問7 古墳時代に、前方後円墳という特定の形式が日本各地の有力者の墓として採用されたことは、当時の政治状況においてどのようなことを意味していますか。

（2018年 長崎県公立入試 類似）

- | | | | |
|-------------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------|--------------------------------------|
| 1. 大陸から伝来した仏教に基づき、全国一斉に寺院の建立が始まったこと | 2. 狩猟・採集中心の生活から、稲作を中心とする社会へ移行し始めたこと | 3. 近畿地方のヤマト政権（大和朝廷）の影響力が各地に及んでいたこと | 4. 各地の豪族が独自の宗教観に基づき、異なる形式の墓を競って造ったこと |
|-------------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------|--------------------------------------|

問8 4世紀から7世紀頃にかけて、朝鮮半島や中国大陸から日本列島へ移住し、鉄器の製作、須恵器の生産、さらには漢字や仏教などの高度な技術や文化を伝えた人々を何と呼ぶか、最も適切なものを選びなさい。

（2017年 徳島県公立入試 類似）

- | | | | |
|-------|--------|--------|--------|
| 1. 防人 | 2. 渡来人 | 3. 遣唐使 | 4. 弥生人 |
|-------|--------|--------|--------|

問9 古墳時代の大和政権において、朝鮮半島や中国から渡来した人々（渡来人）が果たした役割や、彼らがもたらした文化的な影響について述べた文として正しいものはどれですか。

（2024年 群馬県公立入試 類似）

- | | | | |
|--------------------------------------|---------------------------------------|--------------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 銅鐸や銅剣などの青銅器を用いた祭祀を広め、巨大な前方後円墳を築いた | 2. 大和政権で外交や財政管理に従事し、仏教などの新しい文化や技術を伝えた | 3. 狩猟や採集に代わる新しい生活様式として、磨製石器の製作技術を広めた | 4. 稲作を初めて日本に伝え、各地に高床倉庫を持つ集落を形成させた |
|--------------------------------------|---------------------------------------|--------------------------------------|-----------------------------------|

問10 4世紀から7世紀頃、大陸から日本列島へ移住した人々が大和政権の成長や社会の発展に与えた影響として、最も適切な説明はどれですか。

（2026年 山形県公立入試 類似）

- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 遣隋使や遣唐使として大陸に派遣され、最新の政治制度を学んで帰国した後に律令国家の建設を主導した。 | 2. 須恵器の製作技術や漢字、仏教などを伝え、政権の組織づくりや文化の発展に大きく貢献した。 | 3. 稲作の技術を初めて日本に伝え、狩猟や採集を中心とした社会から定住社会への転換を促した。 | 4. 九州沿岸の警備にあたる防人として任命され、大陸からの侵攻を防ぐ軍事的な役割を専門に担った。 |
|---|--|--|--|

問11 日本最大級の規模を誇る前方後円墳である大仙古墳（大山古墳）が位置する場所として正しいものはどれですか。日本全国をいくつかの地域に分けた際、現在の大阪府堺市が含まれる地方の名称を選択しなさい。

（2024年 茨城県公立入試 類似）

- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 近畿地方 | 2. 関東地方 | 3. 東北地方 | 4. 九州地方 |
|---------|---------|---------|---------|

問12 近畿地方を中心に現れた、一方が四角形で他方が円形をした鍵穴のような形の古墳が、時代とともに全国各地（東北南部から九州）へと広がっていった事実は、当時の政治状況についてどのようなことを示していますか。

（2021年 鹿児島県公立入試 類似）

- | | | | |
|--------------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------|--|
| 1. 稲作の技術が全国に普及し、各地の農民が協力して巨大な墓を造ったこと | 2. 仏教の教えが各地に広まり、新しい埋葬の形式が全国で統一されたこと | 3. 大陸から渡来した人々が、日本各地に共通の墓制を直接伝えたこと | 4. 大和政権（ヤマト王権）の勢力や政治的な影響力が、地方にまで拡大したこと |
|--------------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------|--|

問13 古墳時代の中期ごろ、朝鮮半島から伝えられた技術によってつくられるようになった、高温の窯で焼かれた硬質の灰色の土器を何といいますか。

（2017年 千葉県公立入試 類似）

- | | | | |
|---------|--------|--------|---------|
| 1. 弥生土器 | 2. 土師器 | 3. 須恵器 | 4. 縄文土器 |
|---------|--------|--------|---------|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 大和政権（ヤマト王権）の王が、自らの強大な権威や動員できる労働力の大きさを各地の豪族に誇示するため。	古墳時代において、巨大な前方後円墳を築くには膨大な年月と膨大な人数の労働力が必要でした。このような大規模な土木工事を行うことができた事実は、その被葬者が広範囲に及ぶ支配権と財力を持っていたことを象徴しています。また、前方後円墳という特定の形式が日本各地に広がったことは、大和政権（ヤマト王権）を中心とした政治的な連合や身分秩序が各地の豪族との間に形成されていたことを示しています。
問2	答え 2 三国時代	3世紀の中国大陸では、魏、呉、蜀の三つの国が並び立ち、互いに勢力を争っていました。この時期を三国時代と呼び、日本の邪馬台国の女王・卑弥呼は、その中の一つである「魏」に使いを送り、金印や銅鏡を授かることで自らの権威を高めようとした。
問3	答え 1 大王	古墳時代のヤマト政権において、最高権力者は「大王（おおきみ）」と呼ばれていました。埼玉県の稲荷山古墳から出土した鉄剣には「ワカタケル大王」の名が刻まれており、この称号が当時の支配者を表していたことを示しています。「天皇」という称号が公式に使われ始めたのは、7世紀後半の天武天皇・持統天皇の時代からであると考えられています。
問4	答え 1 高温で焼かれた、かたくて灰色の須恵器	渡来人は朝鮮半島から新しい技術をもたらしました。その一つとして、窯を用いて高温で焼き上げる、かたくて灰色の須恵器をつくる技術が伝えられました。
問5	答え 3 日本最大の面積を誇る大仙古墳（大山古墳）など、巨大な前方後円墳が含まれている。	百舌鳥・古市古墳群は、現在の大阪府堺市、羽曳野市、藤井寺市に広がる古墳群です。4世紀後半から5世紀後半にかけて、当時の王権（ヤマト政権）の王たちの墓として築かれました。
問6	答え 3 仏教の伝来にともない、それまで権威の象徴であった有力者の巨大な墓に代わって、寺院が建立されるようになった。	古墳時代から飛鳥時代にかけて、支配者の権力を誇示する方法に大きな変化が生じました。大陸から伝わった仏教を政治に取り入れる動きが強まる中で、それまでの伝統的な古墳（墓）に代わり、高度な技術を用いた寺院を建立することが有力者の新たな権威の象徴となりました。法隆寺などの建立はこの歴史的な流れを反映しています。
問7	答え 3 近畿地方のヤマト政権（大和朝廷）の影響力が各地に及んでいたこと	鍵穴のような特有の形状が標準化され、各地で模倣されたことは、その地域の有力者が近畿のヤマト政権と政治的な同盟関係や主従関係を結んでいたことを示しています。これにより、ヤマト政権を中心とした政治体制が広まっていったことがわかります。
問8	答え 2 渡来人	4世紀以降、大陸での戦乱などを背景に、朝鮮半島や中国大陸から優れた技術や知識を持つ人々が日本列島へ移り住みました。彼らは金属加工や土木技術、機織りなどの実用的な技術だけでなく、漢字や儒教、仏教といった学問・宗教も伝え、古代日本の文化や政治の発展に大きな役割を果たしました。
問9	答え 2 大和政権で外交や財政管理に従事し、仏教などの新しい文化や技術を伝えた	朝鮮半島や中国から日本に移り住んだ渡来人は、当時の先進的な知識を持っていたため、大和政権において外交文書の作成や財政の記録・管理といった重要な実務を担いました。彼らを通じて、6世紀の百済からの仏教伝来に代表されるような、大陸の新しい学問、宗教、技術が日本に定着し、国家の仕組みが整えられていきました。
問10	答え 2 須恵器の製作技術や漢字、仏教などを伝え、政権の組織づくりや文化の発展に大きく貢献した。	移住した人々は、須恵器の製作、金属器の加工、養蚕、織物といった実用的な技術だけでなく、漢字や仏教、儒教といった学問や宗教も伝えました。これらの知識や技術は、大和政権が国内を統治するための公文書作成や、国家としての権威を高めるための寺院建築などに活用され、古代日本の国家形成において不可欠な役割を果たしました。なお、稲作の伝来は弥生時代、防人の制度は7世紀後半の白村江の戦い以降に本格化したものです。
問11	答え 1 近畿地方	5世紀頃、現在の大阪府や奈良県などを含む近畿地方を中心に、巨大な前方後円墳が数多く造られました。大仙古墳は、当時の大和政権（ヤマト王権）の首長である大王の権力を象徴するものであり、現在の大阪府堺市に位置しています。
問12	答え 4 大和政権（ヤマト王権）の勢力や政治的な影響力が、地方にまで拡大したこと	各地の有力者が大和政権と同じ形式の古墳を築くことは、その有力者が大和政権と政治的な結びつき（同盟や服属）を持っていたことを意味します。このため、前方後円墳の分布範囲を調査することで、当時の大和政権の影響力がどこまで及んでいたかを推測することができます。
問13	答え 3 須恵器	須恵器は、古墳時代に朝鮮半島から渡来した技術者によって伝えられました。従来の日本で見られた野焼きの土器とは異なり、斜面を利用した「穴窯」を用いることで1000度以上の高温で焼き上げることが可能となり、硬くて水を通しにくい性質を持っています。